

集団づくりを自己肯定感の向上につなげましょう ～「協力」が「自信」を生み出す～

<「児童生徒質問調査」から> (数値は仙台市を含みます)

※回答選択肢:「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」

質問番号	質問事項	校種	当てはまる (%)	当てはまらない (%)	自校 当てはまる
児童生徒 質問(5)	自分にはよいところがあると思いますか	小学校 (全国)	45.2 (47.3)	4.7 (3.9)	
		中学校 (全国)	38.9 (40.7)	3.3 (3.2)	
児童生徒 質問(39)	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	小学校 (全国)	48.4 (49.9)	1.7 (1.5)	
		中学校 (全国)	43.6 (45.5)	1.2 (1.3)	

<児童生徒質問(5)について>

- 小・中学校ともに、「当てはまる」が全国平均を約2ポイント下回っていました。
また、小学校では「当てはまらない」が全国平均を0.8ポイント上回っていました。

<児童生徒質問(39)について>

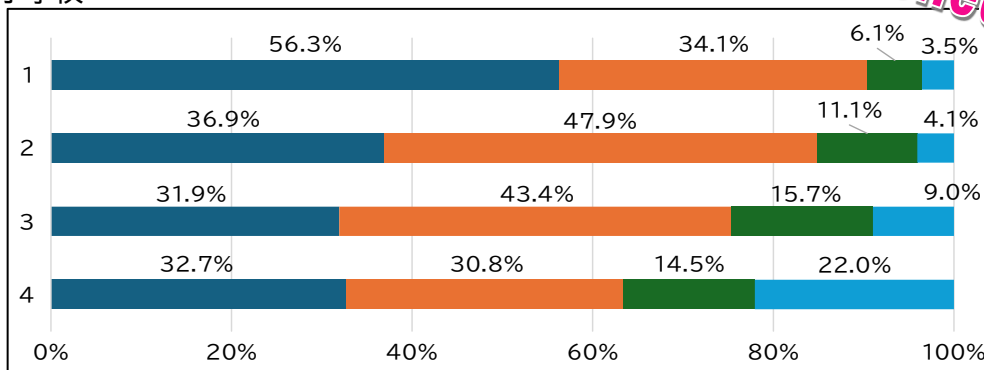
- 小学校は1.5ポイント、中学校は1.9ポイント、全国平均を下回りました。
一方、「当てはまらない」については、小・中学校ともに全国と同等でした。



<質問(5)と(39)とのクロス集計> ※縦軸:質問(5) 横軸:質問(39)

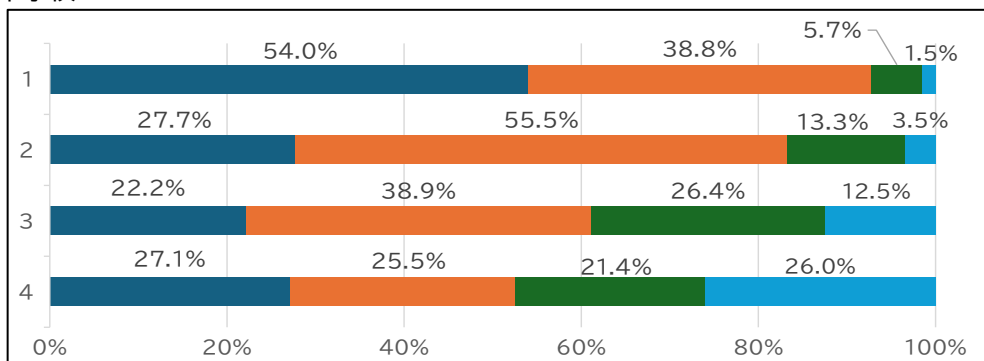
■: 1 (当てはまる) ■: 2 (どちらかといえば、当てはまる) ■: 3 (どちらかといえば、当てはまらない) ■: 4 (当てはまらない)

小学校



Check!

中学校



小・中学校ともに、「自分にはよいところがある」について「当てはまる」と回答した児童生徒の5割以上が、「相手を大切に、協力しながら課題解決に取り組む」ことにも「当てはまる」として回答しています。一方、自己肯定感が低くなるにつれて、「相手を大切に、協力して課題解決に取り組む」児童生徒も減少している傾向が見られました。

児童生徒が尊重し合い、良さや可能性を発揮し合える集団づくりが自己肯定感の向上へつながります。集団の成長に向けて、発達支持的生徒指導における実践上の4つの視点を日常の授業や学年・学級経営の中で常に意識しながら、教育活動を展開していきましょう。

生徒指導の実践上の4つの視点を意識した働き掛けのヒント

校内研修や学年会議、初任者研修などで活用してみましょう。



「自己存在感の感受」

「自分は大切」「できる」と感じさせる

- 信頼関係を築く
丁寧な呼名 目を見て会話 傾聴と寄り添い
- 「個別最適な学び」の実現
「分かった」「できた」という成功体験
- 努力の過程を評価
頑張りや思考のプロセスを大切にする
- 承認や称賛
「頑張っているね」「応援しているよ」
- 出番と役割の創出
責任ある役割を与えて達成感を味わわせる



「共感的な人間関係の育成」

認め合い、励まし合い、支え合う集団に

- 多様な交流活動の実施
協働的な学習で認め合う機会
→ ペアワークやグループワーク など
自然な形で協力し合う体験
→ ゲームやレクリエーション など
- コミュニケーションスキルの指導
相手の良さの発見
応援する言動
相手の顔を見ながら交流
うなずきや相づちなどの反応
最後まで話を聞く など



「自己決定の場の提供」

自分で考え、選択し、責任を持つ体験を

- 選択の機会の確保
・ 学習テーマや課題
・ 学習方法
・ 当番や役割
・ 朝の時間や休み時間の過ごし方 など
- 授業運営、規範形成への参画
・ 授業のルールや目標設定の一部を協議
・ 学級目標や学級ルールの作成・見直し など
- 課題解決の機会
主体的に解決策を見つけるプロセスを重視
- 情報の提供
選択に必要な情報を多角的に示す
- 協議と振り返りの場の設定
次の行動につなげる機会を与える



「安全・安心な風土の醸成」

身体的、精神的に安心できる環境を他の3つの視点を支える土台です。

- 「いじめや差別」への毅然とした指導
- 偏見を許さない集団の規範形成
- 失敗を許容する雰囲気づくり
- 多様性の尊重
- 児童生徒への共感的な理解
- 共通理解に基づく指導
全教職員で生徒指導提要の視点や学校の生徒指導方針を共有し、一貫した対応につなげる

